

平成30年度第2回座間市地下水保全連絡協議会 会議録

- 1 日 時 平成31年3月19日(火) 午後2時00分～午後3時50分
- 2 場 所 ふれあい会館 2階 81会議室
- 3 出席者 委 員 岩田会長、小俣副会長、室星委員、小林委員、山田委員、塩谷委員
渡邊委員、野口委員
事務局 環境経済部長、環境政策課長、環境保全係長、主査1名、主事1名
- 4 公開の可否 公開 一部公開 非公開
- 5 傍聴者 なし
- 6 議 題 ・座間市地下水総合調査事業委託 平成30年度成果報告について
・その他
- 7 配布資料 ・次第
・座間市環境基本計画年次報告書(平成29年度報告)

8 議 事

(1) 座間市地下水総合調査事業委託 平成30年度成果報告について

① パシフィックコンサルタンツ(株)(以下「PCKK」という。)による説明

② 質疑応答

・渡邊委員

資料の中で『第3水源協の湧水』は降水との応答が良くない』とあるが、これはどういう意味か。

・PCKK

『第3水源協の湧水』は、『芹沢川に湧き出す湧水』に比べて降水に対する変動が小さいということになる。『芹沢川に湧き出す湧水』は比較的浅い地下水が湧出しているのに対し、『第3水源協の湧水』は周りからゆっくりと湧き出しているため、雨が降ったからといって、すぐに増えるような状況ではないと考えている。

・岩田会長

以前の協議会において、雨水浸透ますの話があったと思うが、空き地だったところにどんどん家が建っている状況がある。雨水浸透ますを設置するとは思いますが、かん養量が気になっている。そこで、雨水浸透ますと湧水の関係はどのように考えれば良いか。

・PCKK

雨水浸透ますが増えれば、浸透量が増え、地下水が増えることになり、動水効果で水位の高さ、角度がつくので、湧水が増えることになる。

今現在の状況としては、水位に大きな変動がない状況なので、湧水量・河川流量はほぼ変わらない。基本的には、この状況が維持できれば良いが、浸透できる場所が減り、

かん養が減った時に水位が上がるのか、下がるのかを解析で表現できると考えている。最終的には、水循環モデルによる予測結果を参考に、地下水の保存の検討を行うことができると考えている。

・会長

芹沢川の上流に、戦時中に飛行機製造に使われた防空壕（地下空洞）があるが、地下水に影響はあるのか。

・PCKK

地下に空洞があるのであれば、すごく影響を与える可能性があるので、確認する必要がある。

・小林委員

地下空洞は、地下水位よりも深度が浅いため、反映するという話ではないと考える。

・小林委員

今回の地下水総合調査結果について、当初の想定と異なる点はあるか。

・PCKK

現在、観測してきた結果としては、基本的には当初想定していた結果が得られていると思っている。地層については、今年度の調査を行うことで情報の更新ができた。また、それ以外の水の観点からは、当初想定していた動きだったと思う。

・事務局

芹沢川に湧き出す湧水について、降雨との応答が良いとのことだが、本地点については、周辺の雨水排出などの影響を受ける可能性もあるため、現時点で応答が良いとは言い切れないと考える。降雨量の多い時の観測と併せて、周辺からの雨水流入状況を確認しておきたい。

・PCKK

周辺の状況について、事前に確認する。

・小林委員

資料の地下水位等高線図を見ると、観測水位と解析水位に5m程度の差がみられるが、その理由は何か。

・PCKK

水循環モデルによる地下水位は、定常解析による結果であり、地下水位等高線は、平成29年度に行った調査の結果から作成したもので、完全に一致するものではないが、地下水流動としては、概ね再現できていると判断している。今後、非定常解析を行う中で透水性などの調整を行い、将来予測ができるモデルを構築していく予定である。

・小林委員

現在の地下水位が下がっているということではないか。

・ PCKK

あくまでも水循環モデルと一斉地下水位調査結果を比較したものであり、座間市の地下水位が下がっているということではない。

(2) その他

事務局より、「座間市環境基本計画年次報告書（平成29年度報告）の完成について」及び「地下水位計4台の修繕（平成30年9月6日に無事完了）について」の報告